

新国立「了承」

総工費「説明不足」 財源確保に注文も

2020年東京五輪・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場の総工費2520億円の巨額整備事業案が7日、日本スポーツ振興センター（JSC）から有識者会議に報告された。整備事業案はおおむね了承され、7月上旬の請負業者との契約に向け「お墨付き」を得たが、委員からは二転三転した総工費に関し説明不足を指摘する声や、確実な財源確保を求める声も聞かれた。



夏季五輪メインスタジアムの 総工費と収容数



※総工費は当時の
為替レートで換算



会議では、新国立の事業主体であるJSC側から整備事業案の内訳などの詳細が報告された後、各委員が

日本スポーツ振興センター（JSC）の7日の有識者会議では、委員の一人である新国立競技場のデザインを推した建築家の安藤忠雄氏が欠席したほか、総工費の一部負担をめぐり対応が注目された東京都の舛添要一知事からも目立った発言は聞かれなかった。

安藤氏は新国立の総工費の上昇を招いた英国の女性建築家、ザハ・ハジド氏のデザインを採用を決めた審査委員会の委員長を務めていた。しかし、6日にあって「本人の都合」（JSC広報担当者）で欠席が決まった。

一方、新国立の計画について「べらぼうに高い」など否定的な見方を示していた舛添知事はこの日の会

安藤氏見解なし、都知事も言葉少な

委員から賛同の声が相次ぐ中、不満の声も。委員の浩史衆院議員は基本設計段階から900億円増えた総工費について「説明が足りないのではないか。さらに膨らめば不信感が出てく

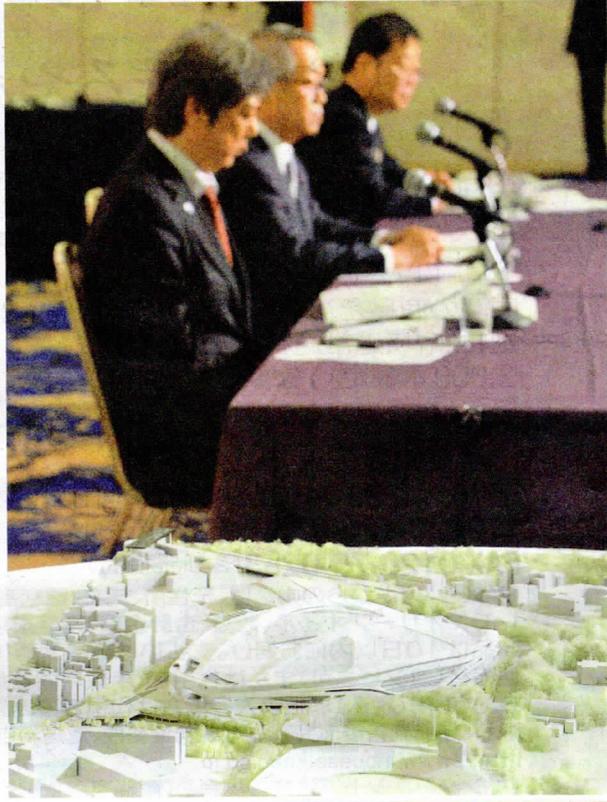
るので、きっちり議論してほしい」と指摘。委員の馳浩衆院議員も「しっかりと根回しして、みんなで予算を確保しないとけない」と財源確保を徹底するよう注文をつけた。

終了後、JSC幹部に詰め寄って事情説明を求める一幕もあった。

舛添氏は5月に下村博文文部科学相から500億円の負担要請を受けた後、「都民の納得できる説明が必要だ」と総工費の内訳などの提示を繰り返し要求していた。

その後、都内で取材に応じた舛添氏は「値段と工期の説明は受けたが、都民が納得する説明がまだ」などと述べ、負担については8日に設定された遠藤利明五輪相との面会後に考える姿勢を示した。

新国立競技場の横で行われた日本スポーツ振興センターの会見（7日午後、東京都港区）
（三尾郁恵撮影）



おやこ新聞 まめちしき



Q 五輪のメインスタジアムでは何が行われるの？
A 一般的に開会式や閉会式、陸上競技などを行うよ。マラソンの発着点になることもあるんだ。五輪の「顔」といえるね。ただし、来年のリオデジャネイロ五輪では、陸上はメインスタジアムで行われるけど、開閉会式はマラカナン競技場で実施されるよ。
Q ほかの開催都市のメインスタジアムはどんな規模？
A 2012年ロンドン五輪では

8万人収容の、08年北京五輪では9万人収容のスタジアムが建てられた。新国立競技場は収容8万人のスタジアムになるんだよ。
Q どんな施設が必要なの？
A 例えば、陸上ではトラックが9レーンあるのが国際標準だね。取り壊された国立競技場は1964年に開催された東京五輪のメインスタジアムだったけれど、8レーンしかなかったんだ。